

ニ ュ ー ス

Dr. Chomsky の来日について

M.I.T. の Noam Chomsky 教授は東京言語研究所主催 1966 年度理論言語学国際セミナーの講師として 8 月 15 日夕、Carol 夫人と 2 人のお嬢さんを伴って来日した。

8 月 23 日夜の第一生命ホールにおける “Language and the Science of man” と題する公開講演をかわきりに、8 月 25 日より 10 日間のセミナーにのぞみ、その間、さらに第 2 回目の公開講演 “Linguistic contributions to the study of mind” をおこなうなどエネルギーな活動をおこなって 9 月 6 日朝、離日した。

国際セミナーは 8 月 25 日より 9 月 5 日まで日生会館国際ホールで開催された。講義の内容は Syntax に関して 6 日間、英語の Phonology に関して 4 日間で、午前中、毎日約 2 時間おこなわれた。午後は全期間中、毎日約 2 時間、小グループのディスカッションがおこなわれ、Chomsky 教授はセミナー参加者の発表に対して熱心に討論や指導をおこなった。

セミナー参加者は 112 名で午後のディスカッションには約 40 名。前記 2 回の公開講演の聴講者は約 700 人であった。

セミナーにおけるレクチュアの内容を書き直したものは株式会社テックから来年早々に出版される。また公開講演の日本語訳は雑誌「ことばの宇宙」11 月号にすでに掲載されている。この原文もおって公刊される予定である。

Dr. Saltzer が Multics について講演

日本電子工業振興協会の招きで 1966 年 8 月 16 日に来日、8 日間にわたる講義を行ない、そのあとの一般講演会も満員の盛況を呈した。

Jerome Howard Saltzer はこの 7 月に学位をとり助教授に昇任した弱冠 26 才の M.I.T. 育ちの秀才である。

2 年前から Project MAC に参画し、一方ではプログラミング・システムの講義などを学部で行なっている。Multics は、R.M. Fano, F.J. Corbató, E.L. Glaser のもとに、GE-BTL-MIT が力を合わせて開発

しているシステムで、次の五つの部門に分かれている。

- 1) ファイル・システム
- 2) セントラル・スーパーバイザ
- 3) コマンド・システム
- 4) 入出力システム
- 5) ドキュメンテーション

Dr. Saltzer は 2) のチーフを務め、配下には GE から 2 名、BTL から 2 名、MIT から 3 名をしながら Traffic Control と称する Multiplexing の臓部を作っている。学位論文 Traffic Control in Multiplexed Computer System の紹介に力点を置いた講義であったが、まだインクの匂いがするような新鮮なその内容は、メーカ・大学・電試など参加者タイム・シャリング流行のおりでもあり、少なからず感銘を与えた。

立板に水のような早口の講義に対して多数の質問があり、後日まとめて印刷され参加者に配付された。

モスクワで第 5 回国際数学会議

戦後第 5 回めの国際数学会議 (International Congress of Mathematicians, 略称 ICM) が 1966 年 8 月 16 日から 26 日にわたってモスクワで開かれた。日本からの参加者は 27 名で、この会議への参加者総数は約 5,000 人ということであった。開会式において恒例の Fields 賞の受賞者の発表があり、M.F. Atiyah, P.J. Cohen, A. Grothendieck, S. Smal の 4 名がその栄誉になった。分科会は 15 あり、11 分科会から 14 分科会までがそれぞれ、確率統計・応用数学・物理数学制御理論、数値計算の分野を扱った。数値計算の分科会では約 160 の論文が発表され、うち 90 余りがロシア語によるものであった。会場はモスクワ大学で、大学の計算センターが公開され、V-20 型と BESM IV 型計算機が披露された。前者は 1961 年に設置され磁心 4 K、後者は今年夏に調整されたもので磁心 4 K 2 個、ドラム 16 K 4 個、磁テープ 4 台をもつ。センターはオペレータ 6 名で 24 時間稼働ということであった。

国鉄、郡山に自動操車場を建設

国鉄では、43 年 7 月営業開始を目標に東北線郡

かっている。

配下には GE
の名をしが
lexing の
Control in
に力点を
がするよう
など参加者
、少なからず

多数の質疑
に配付され

会議

international

CM) が 196

クワで開かれ

会議への参加

た。開会式に

があり、MR

k, S. Small

15 あり、第

し、確率統計

の分野を扱

文が発表され

った。会場に

公開され、

れた。前者は

夏に調整を

く 4 個、磁

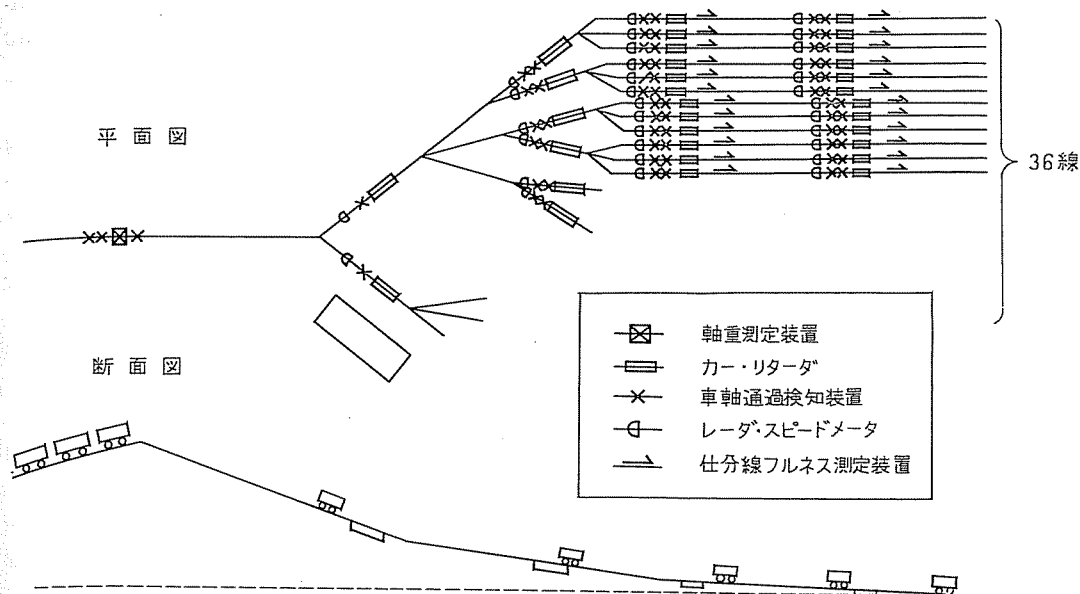
-タ 6 名で 2

建設

に東北線

平面図

断面図



に、高度に自動化された操車場を建設中である。

操車場というのは、貨車を行先方面別に分類して列車に仕立てる所で、大きな操車場では、到着した列車は図のようにハンプと称する小さな丘から切り離して落され、途中のポイントの切り換えにより行先方面別に分類されて仕分線に入る。

郡山操車場では、この仕分の過程での押上機関車の速度制御、ポイントの切り換え、貨車が仕分線中で連結されるまでの速度制御など、貨車の物理的な運動がすべて自動的に計算機で制御される他に、作業計画その他の情報処理作業までも計算機で処理される。

外国でも操車場自動化の例はあるが、多くは部分的な自動化で、このような全面的な自動化の例はない。

40 年末から 41 年 5 月ごろにかけて試験用の制御機器が設置され、41 年 3 月には計算機も主要部のすえ付けを終り、現在、試験線を使って、最も問題の多い貨車の速度制御を主とする試験が行なわれている。

計算機システムは、信頼性を高めるために 2 重系になっており、そのおのおのの系に 2 台のプロセッサがあり、一方が主として貨車の制御、他が主として情報処理を受持っており、貨車の制御を受持っている計算機は、故障時には制御を中断しないように、瞬時に他系へ切り換わるようになっている。

1966 年・日本電子計算機ショウ開く

国産メーカ 6 社の最新システムを一堂に集めた

「1966 年・日本電子計算機ショウ」が、11 月 21 日から 26 日まで、東京晴海の国際貿易センターで行なわれた。このショウは、国産機のレンタル会社である日本電子計算機(株)と(社)日本電子工業振興協会の主催、通産省の後援だが、今年で第 4 回目に当たる。



出品は富士通、三菱電機、沖電気、東芝、日本電気、日立製作所によって行なわれ、各社とも第三世代の最新鋭システムを展示実演し、さらにタイム・シェアリング、オンライン・リアルタイム処理など最新のアプリケーションウェアを展示した。

日本電子計算機(株)のまとめた昭和 41 年 9 月末現在の電子計算組織設置状況調査によれば、わが国の実動数は、2,159 セット、約 1934 億円に達したが、このうち 1,208 セット (56.4%)、739 億円 (38.2%) が国産機によって占められる。産業別実動状況をみて

も、電子計算機を設置している産業は、32 産業にも及んでおり、導入インパクトは、ほとんど全産業に波及したといえる。

このような電子計算機の関心を反映してか、今回のショウには、25 日に皇太子殿下がお見えになったのを始め、およそ 73,000 人の参観者が入場するという盛況振りであった。とくに IC 採用の新鋭機、タイム・シェアリング実演は、注目を集めた。各社の出品内容は次のとおりである。

富士通=タイム・シェアリング・システム

(FACOM 230-50 による) ▷ FACOM 230-20 ▷ FACOM 230-10 ▷ FACOM 270-30

三菱電機=MELCOM 3100

沖電気=OUK 9000 シリーズ

東芝=TOSBAC 5100 モデル 20, 30 ▷ TOSBAC 3400 モデル 20, 30 ▷ TOSBAC 1100

日電=タイム・シェアリング・システム

(NEAC シリーズ 2200 モデル 400 による) ▷ オンライン・リアルタイム・システム (NEAC 2230 による) ▷ NEAC シリーズ 2200 モデル 400 ▷ NEAC シリーズ 2200 モデル 50 ▷ NEAC シリーズ ▷ NEAC 1210.

日立=HITAC 8100 ▷ HITAC 8200 ▷ HITAC 9000 オンライン・インクワアライ・システム

日本語コボル完成

日本電気(株)では、日常語による共通プログラミ

ング言語の開発を目的に、事務用共通言語—CODASYL の COBOL 言語—の日本語化を試み、NEAC シリーズ 2200 において日本語コボルとして実用化した。

この日本語コボルでは、記述形式、言語要素の構成、用語、分かち書き、助詞などについて日本語化への配慮が払われており、データもプログラムも全部がナ文字で記述できるので、プログラムの作成、修正、誤り訂正などが、容易に行なえることが大きな特徴である。

日本語コボルの概要

文章構造: 部, 節, 文, 語, 文字

文字セット: カナ文字, 数字, 英字, 特殊記号 (合計 97 文字)

言語記述様式:

ミダシ ノ ブ

ソースプログラムの見出し, 標識を与える。

システム ノ ブ

ソースプログラムを機械語に翻訳したり, 実行したりする計算機の機器構成や, データファイルと入出力装置との関係を示す。

データ ノ ブ

処理するデータ, 作業番地, 定数の記述, 定義を行なう。

シヨリ ノ ブ

処理の手順を示す。

001220	シヨリ=イ。
001230	シヨリ=イ=ハシメ カラ シヨリ=イ=クローズ" マテ" オ マイスウ カイ シツコウ スル。
001240	カート"1マイヨメ = イク。
001250	シヨリ=ロ。
001260	モシ マイスウ カ" クウハク = ヒトシイ ナラハ" マイスウ = イ オ ウツス。
001270	シヨリ=ロ=ハシメ カラ シヨリ=ロ=トシル マテ" オ マイスウ カイ シツコウ スル。
001280	カート"1マイヨメ = イク。
001290	シヨリ=ハ。
001300	モシ マイスウ = クウハク ナラハ" マイスウ = イ オ ウツス。
001310	シヨリ=ハ=ハシメ カラ シヨリ=ハ=クローズ" マテ" オ マイスウ カイ シツコウ スル。
001320	カート"1マイヨメ = イク。
001330	シヨリ=ロ=ハシメ。
001340	ニユウリヨク テ=プロ=2 シュツリヨク フォリントファイル オ ヒラク。
001350	マス"ハシメ。
001360	フォリントレポート" = クウハク オ ウツシテ フォリントレポート" オ カク
001370	ソノ アトテ" タ"イイキ"ヨウ マテ" カイキ"ヨウ スル。
001380	ワーク=イ オ フォリントレポート" = ウツシテ フォリントレポート" オ カク ソノ アトテ"
001390	1 キ"ヨウ カイキ"ヨウ スル。
001400	ワーク=ロ オ フォリントレポート" = ウツス フォリントレポート" オ カク
001410	ソノ アトテ" 1 キ"ヨウ カイキ"ヨウ スル。

昭
日本
で、
が行
本会
昭
西村
講演
た。
(1
「C
山
なっ
(1
名)
「
(電
S
(
室、
(
て、
が行
(:
the
(
席者
(
につ
対し
(
Con
Pro